



## 日本組織培養学会

### 会員通信

第134号

平成 27 年 7 月 24 日

発行者

\* 森 一憲 (昭和大学)

\* 責任者連絡先

〒142-8555

品川区旗の台1-5-8

昭和大学 薬学部 生体分子薬学講座

腫瘍細胞生物学部門

TEL: 03-3784-8209

E-mail: mori@pharm.showa-u.ac.jp

## 目次

1. 平成 27 年度幹事会報告 .....	2
1). 会員動向 .....	2
2). 審議事項 .....	2
3). 平成 26 年度会計報告 .....	5
4). 平成 27 年度予算案 .....	7
5). 第 89 回大会概要 .....	8
2. 第 88 回大会を終えて .....	9
1). 大会長報告 .....	9
2). 奨励賞審査結果 .....	10
3). 奨励賞受賞者から .....	10
3. 各種委員会報告 .....	12
4. 評議員名簿 .....	15
5. 過去の奨励賞受賞者一覧 .....	16

## 1. 平成 27 年度幹事会報告

### 1). 会員動向

会員動向について報告がなされた。また、会費納入についても報告がなされた。

	2013年3月末	2014年3月末	2015年4月末
正会員	500 名	542 名	583 名
学生会員	107 名	125 名	146 名
賛助会員	21 名	20 名	8 名
名誉会員	21 名	21 名	21 名
寄贈会員	1 名	1 名	1 名
計	650 名	709 名	759 名

	2013年3月末	2014年3月末	2015年4月末
退会・逝去	839 名	865 名	898 名
休会	11 名	11 名	11 名
計	850 名	876 名	909 名

	会員数	納入件数 <sup>※</sup>
正会員	583 名	190 件
学生会員	146 名	34 件
賛助会員	8 名	4 件
計	737 名	228 件

※ 2014年 3月 ~ 2015年 2月の納入者

※新年会費の請求は毎年 2 月末となります。  
会費は学会財政の基盤となるものです。

よろしくご理解ご協力をお願いいたします。

### 2). 審議事項 (抜粋)

#### 新しい評議員の選出 (中村：絵野沢・片岡)

幹事会において、下記先生の評議員への推薦があり、承認された。

田川 陽一 先生 (東京工業大学大学院 生命理工学研究科 准教授)

筒井 健夫 先生 (日本歯科大学 生命歯学部 薬理学講座 准教授)

尚、評議員は会長、幹事、および会則第 10 条に基づく会長指定職をあわせ、71 名となった。  
(評議員の詳細は巻末の評議員リスト (p.15) 参照)

## 評議員に関する会則（細則）の変更

本学会会則（細則）に関する修正案が提案され、承認された。改正箇所について、新旧対応表としてまとめましたので、以下に報告します（改正箇所を下線で表記）。

### 日本組織培養学会会則（細則）の改正箇所

※平成27年6月1日より施行

現行	改正後
<p>第4章 幹事会</p> <p>第5条 幹事会は年1回以上開催する。但し、会長が必要と認めた時、または幹事の3分の2以上が開催を要求した時は、臨時幹事会を開催することができる。また、幹事会は、会長が必要と認めた時かつ幹事全員の賛同を得た場合には、書面（電子メール利用を含む）のみにより開催することができる。</p>	<p>第4章 幹事会</p> <p>第5条 幹事会は年1回以上、会長が必要と認めた時、または幹事の3分の2以上が開催を要求した時、開催する。また、幹事会は、会長が必要と認めた時かつ幹事全員の賛同を得た場合には、書面（電子メール利用を含む）のみにより開催することができる。</p> <p>※左記下線部を削除した。</p>
<p>第5章 評議員の選出</p> <p>第6条 評議員の選出は次のとおり行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会長、幹事は、その任期中、評議員となる。</li> <li>2. <u>評議員候補者は、会長あるいは評議員2名の連名によって、幹事会に推薦される。</u></li> <li>3. <u>評議員は、幹事会の議決によって選出される。</u></li> </ol>	<p>第5章 評議員の選出</p> <p>第6条 評議員の選出は次のとおり行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会長、幹事は、その任期中、評議員となる。</li> <li>2. <u>新しい会長及び幹事の選出を経て最初に開催される幹事会において、会長の推薦及び幹事会の議決によって新評議員が選出される。</u></li> <li>3. <u>前項にて選出されていない</u>評議員候補者は、会長あるいは評議員2名の連名によって、幹事会に推薦される。</li> </ol>
<p>附則：本選考規定は平成26年度から実施する。</p>	<p>附則：本選考規定は平成27年度から実施する。</p>

## 細胞培養士に関する会則（細則）の追加

細胞培養士に関する規定について説明がなされ、第 8 章として記載することが承認された。

### 第 8 章 細胞培養士

第 15 条 本会に細胞培養士養成コースを設ける。

第 16 条 細胞培養士養成コースにかかる詳細な規定は別に定める。

第 17 条 細胞培養士養成コース修了者は、認定試験を経て本会が細胞培養士として認定する。

第 18 条 細胞培養士の認定にかかる詳細な規定は別に定める。

第 19 条 細胞培養士養成コースの指導は、細胞培養指導士が行なう。

第 20 条 細胞培養指導士の委嘱にかかる詳細な規定は別に定める。

## 2017 年・第 90 回大会（2 年後）の大会長の選出

2017 年に開催予定の第 90 回大会の大会長に片岡 健 先生（岡山理科大学）が選出され、承認された。

## 次期会長・幹事の選挙について

次期会長、および幹事の選挙について説明がなされ、下記選挙管理委員 2 名が選出され、承認された。

寛山 隆 先生（理化学研究所バイオリソースセンター）

竹澤 俊明 先生（独立行政法人 農業生物資源研究所）

## SIVB におけるシンポジウムのオーガナイザー

SIVB World Congress (San Diego, CA) におけるシンポジウムのオーガナイザーについて、説明がなされ、Renu Wadhwa 先生（産業技術総合研究所）が選ばれ、承認された。

## 細胞培養基盤技術コース制度について

細胞培養基盤技術コースについて、本学会員を対象とした講習会であることを改めて確認した。そして、来年度（平成 28 年度）より、細胞培養基盤技術コース（コース I）の受講を申込み場合、前年度あるいはそれ以前から本学会員となっていることを条件とすることが提案され、承認された。

※本件については、教育研究システム委員会の報告 (p.12) も併せてお読みになられますようお願いします。

### 3). 平成 26 年度会計報告

庶務・会計幹事 寛山 隆

◀ 一般会計 ▶

#### 【収入の部】

勘定科目	予算額	決算額	備 考
前年度繰越金	3,105,371	3,105,371	
正会員会費	800,000	1,326,000	190 件
学生会員会費	150,000	117,000	34 件
賛助会員会費	500,000	150,000	4 件
入会金	70,000	74,000	74 件
機関誌関連収入	100,000	206,804	購読料, 別刷代等, 著作権使用料, 許諾抄録利用料
講習会関連収入	500,000	72,193	講習会テキストの印税
		2,645,090	講習会
第 87 回大会補助金の返還	0	600,000	第 87 回大会より
雑収入	100	447	普通預金利息
<b>単年度収入合計…①</b>	<b>2,120,100</b>	<b>5,191,534</b>	
<b>収入合計…②</b>	<b>5,225,471</b>	<b>8,296,905</b>	<b>(単位 : 円)</b>

#### 【支出の部】

勘定科目	予算額	決算額	備 考
機関誌発行費	800,000	991,440	33 巻 1 号 1,000 部 (印刷費)
上記送料	100,000	111,730	送料 371 件 前年度過払分 (630 円) 差引
会員通信発行費	50,000	46,980	133 号 500 部 (印刷費)、132 号は未印刷
		140,400	第 88 回大会ポスター等
上記送料	70,000	76,080	送料 422 件
学会業務委託費	500,000	505,559	レタープレス社への業務委託費用 (管理 費, 会費請求, J-STAGE アップロード 費等)
第 88 回大会補助金	600,000	600,000	第 88 回大会補助金
研究教育システム委員会	500,000	9,484	認定証用紙、研究教育システム委員会印
		2,064,511	講習会
情報企画委員会	300,000	256,489	
雑費	4,000	5,400	振込み手数料
<b>単年度支出合計…③</b>	<b>2,924,000</b>	<b>4,808,073</b>	
<b>単年度収支… (=①-③)</b>	<b>Δ 803,900</b>	<b>383,461</b>	<b>(単位 : 円)</b>
<b>次年度繰越金… (=②-③)</b>	<b>2,301,471</b>	<b>3,488,832</b>	<b>(単位 : 円)</b>

◀ 特別会計 ▶

【収入の部】

勘定科目	予算額	決算額	備 考
前年度繰越金	9,366,347	9,366,347	
寄付金収入	80,000	71,736	機関誌以外の出版物「細胞培養なるほど Q&A 許 南浩編」収益寄付等
第 87 回大会残余金	0	1,137,992	第 87 回大会より
雑収入	1,000	1,482	普通預金利息
<b>単年度収入合計…①</b>	<b>81,000</b>	<b>1,211,210</b>	
<b>収入合計…②</b>	<b>9,447,374</b>	<b>10,577,557</b>	(単位：円)

【支出の部】

勘定科目	予算額	決算額	備 考
学会奨励賞	140,000	352,185	奨励賞受賞者への賞金、表彰状用紙
情報企画委員会	0	270,864	学会用ホームページリニューアル
雑費	3,000	4,212	振込み手数料
<b>単年度支出合計…③</b>	<b>143,000</b>	<b>627,261</b>	
<b>単年度収支…(=①-③)</b>	<b>△ 59,000</b>	<b>583,949</b>	(単位：円)
<b>次年度繰越金…(=②-③)</b>	<b>9,304,347</b>	<b>9,950,296</b>	(単位：円)

平成 26 年度の決算書類は、古江-楠田 美保 会員（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 難病・疾患資源研究部）、浅香 勲 会員（京都大学 iPS 細胞研究所）に監査をお願いし、厳正な監査の結果、会計は適切に処理されていることを確認して頂きました。本決算書は、第 88 回大会総会において承認されました。

#### 4). 平成 27 年度予算案

##### 一般会計

##### 【収入の部】

勘定科目	平成 27 年度予算額	備 考
前年度繰越金	3,488,832	
正会員会費	1,300,000	
学生会員会費	120,000	
賛助会員会費	150,000	
入会金	70,000	
機関誌関連収入	200,000	購読料, 別刷代, 著作権使用料, 許諾抄録利用料
講習会関連収入	2,000,000	受講料、講習会テキスト印税
2015 大会補助金の返還	0	
雑収入	500	普通預金利息
<b>単年度収入合計…①</b>	<b>3,840,500</b>	<b>(単位：円)</b>
<b>収入合計…②</b>	<b>7,329,332</b>	<b>(単位：円)</b>

##### 【支出の部】

勘定科目	平成 27 年度予算額	備 考
機関誌発行費	990,000	
上記送料	112,000	
会員通信発行費	47,000	
	140,000	年次大会ポスター作製費
上記送料	76,000	
学会業務委託費	510,000	レタープレス社への業務委託費用
2016 大会補助金	600,000	
講習会関連費用	2,000,000	講師の交通費等
情報企画委員会	200,000	ホームページ運用委託費
雑費	5,000	振込み手数料
<b>単年度支出合計…③</b>	<b>4,680,000</b>	<b>(単位：円)</b>
<b>単年度収支… (=①-③)</b>	<b>△ 839,500</b>	<b>(単位：円)</b>
<b>次年度繰越金… (=②-③)</b>	<b>2,649,332</b>	<b>(単位：円)</b>

## 5). 第 89 回大会概要

日時： 2016 年 5 月 25 (水) , 26 日 (木)

テーマ：「細胞の形態を計 (み) る」

会場： 千里ライフサイエンスセンター (大阪府豊中市新千里東町 1-4-2)

大会長： 古江-楠田美保 (国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所)

### 特別講演

「哺乳類大脳発生の神経幹細胞プログラム：live imaging からわかること」

松崎文雄 先生 (理化学研究所多細胞システム形成研究センター 非対称細胞分裂研究チーム・チームリーダー)

### シンポジウム

「培養細胞の形態を評価する」

紀ノ岡 正博 教授 (大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻 生物プロセスシステム工学領域)

「iPS 細胞の品質変動と Good Cell Culture Practice」

大沼清 准教授 (長岡技術科学大学技学研究院 技術科学イノベーション専攻・生物機能工学専攻・兼任)

他

大会の翌日に下記シンポジウムを開催予定です。

創薬シンポジウム「培養神経細胞の創薬応用の可能性」

日時：2016 年 5 月 27 日 (金)

会場：千里ライフサイエンスセンター (大阪府豊中市新千里東町 1-4-2)

## 2. 第88回大会を終えて

### 1). 大会長報告

第 88 回大会 大会長 二川浩樹

日本組織培養学会第 88 回大会は、「臨床のための細胞培養」をテーマとして、広島市南区にある広島大学霞キャンパス内の広仁会館において、平成 27 年 5 月 26 日(火)と 27 日(水)の 2 日間 にわたって開催いたしました。

大会の開催にあたり、ご協力・ご支援を下さいました幹事、実行委員、オーガナイザー、座長、演者、会員諸氏、参加者および協賛企業の皆様に感謝申し上げます。

当初は、参加者数を懸念しておりましたが、当日は天候にも恵まれ、約 185名 (会員 63 名、非会員 74 名、招待者 28 名、ブース 展示およびランチョンセミナーの企業関係者約 20 名)のご参加を得ることができ、お陰様で無事盛会のうちに終えることができました。広島での開催は、ちょうど10年前の岡本大会長以来になるとの中村会長のご挨拶に始まりました。歯科の事例が中心でしたが、再生医療の臨床応用を視野に入れた培養技術や検査技術などについて臨床や医療という観点からの研究成果について、一般演題44題 (口演20題、ポスター24題) および若手の先生方による奨励賞対象演題 (2 演題)、レヌー先生からのご発案のEPA (4 演題)、特別講演(2 演題)、シンポジウム (2つ計6 演題)、ランチョンセミナー (1 演題)の発表と細胞培養指導士講習会を行って頂きました。

特別講演 1 では、古江-楠田先生から「ヒトES/iPS細胞培養の産業応用と現実 「細胞特性と再現性」」についてのご講演をいただき、特別講演 2 では、厚生労働省の飛田護邦先生から「再生医療等安全性確保法と細胞培養について」のご講演をいただき、再生医療を臨床で実践していく上で、必要なシステムなど整備していくべき点について改めて認識することが出来ました。また、ランチョンセミナーでは、再生医療を実践されているJTECの畠賢一郎先生より「自家細胞を用いた再生医療産業化への挑戦 -細胞培養は製造なのか加工なのか-」のご講演をいただき、再生医療の実践の中で、何が足りなくて何が必要なかをわかり易く解説していただきました。

懇親会では、永年、日本組織培養学会の発展にご尽力頂きました許南浩先生と岡本哲治先生に中村会長より (サプライズ的に?) 功労賞の授与が行われました。

今回の大会では、多くの先生方に座長の労をとっていただき、おかげさまで各演題とも活発な議論が行われましたことに改めて御礼申し上げます。また、ランチョンセミナー、企業展示および広告など様々な形で多くの企業にご協賛を頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、当日は不行き届きが多々あったと思いますが、御容赦下さいますようお願い申し上げます。

なお、来年の第 89 回大会は、平成 28 年 5 月 25 日 (水) と 26 日 (木) の 2 日間にわたって、古江-楠田美保先生の大会長の下、大阪の千里ライフサイエンスセンターで行われる予定です。新たな企画もあるそうですので、皆様と再びお目にかかり、組織培養に関して多くを学びながら、また活発な議論の中で学术交流をより一層深められます事を心より楽しみに致しております。

## 2). 奨励賞審査結果

奨励賞とEPA（English Presentation Award）のご報告

教育・奨励賞担当幹事

絵野沢 伸

第88回大会の奨励賞候補2演題はともに完成度の高い内容であり、文句なく受賞となった。一題目の亀井謙一郎氏（京都大学物質-細胞統合システム拠点）の発表は英語であったが、非常にわかりやすく、審査員にも好評であった。二題目の木根原匡希氏（広島大学）もていねいな発表と質疑で好感が持たれた。口演に引き続くポスター発表では予定の60分間、休みなく参加者が訪れ、説明と質疑が連続し両氏とも充実感を得るとともにさぞ疲れたであろうと察せられた。

今回から奨励賞に加えEnglish Presentation Award、EPAが開始された。これは一昨年の第86回大会のレヌー・ワダワ大会長（産業技術総合研究所）が寄付とともに提案された賞で、本学会会員の国際化推進を目的としている。数年前に始まったEnglish Sessionのさらなる活性化が期待される。今回は4名のエントリーがあり、内容、発表技術ともに高レベルであり、全員受賞した。

本大会は21世紀になって15回目であることを記念し、歴代の奨励賞受賞者リストを末尾に掲載したので是非ご覧ください（p.16）。

## 3). 奨励賞受賞者から

亀井 謙一郎（京都大学 物質-細胞統合システム拠点（WPI-iCeMS））

この度は、日本組織培養学会第88回大会に於きまして、栄誉ある奨励賞を賜り大変光栄に存じます。また、臨床応用へ向けた細胞培養方法を始め、数々の実用化に向けた研究が議論される本大会にて、私どもの研究を発表する機会を与您にいただき、感謝の念に絶えません。本寄稿の場を借りまして、本学会長の中村幸夫先生、第88回大会長の二川浩樹先生、奨励賞審査委員長の絵野沢伸先生、また日本組織培養学会の関係者の皆様に熱く御礼申し上げます。本奨励賞の受賞を機に、より一層研究に精進していく所存です。今後とも、御指導、御鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

当研究室では、ナノ・マイクロテクノロジーといった微細加工技術を応用し、細胞の厳密な制御を可能にする新規培養・実験法の開発に取り組んでおり、特に人工的に細胞外微小環境（Cellular microenvironments）を創出することに着目して、その目標を達成しようとしています。生体内における細胞外微小環境とは、様々な細胞の機能・運命制御を担っています。もし、この環境を人工的に創出することが出来れば、細胞の自在制御が可能になることが期待されます。しかしながら、従来から使用されている細胞培養ディッシュやピペット操作で

は、マクロなスケールでの大まかな細胞実験しか行うことができず、細胞の目的とする機能を得ることが困難でした。そこで、今回の受賞対象となった「Creating the right microenvironments for controlling stem cell phenotypes」は、私の研究のメインテーマであり、微細加工技術の細胞培養・実験技術開発への有用性を示すことができたのではないかと存じます。大会中には数々の先生方から御指導頂き、今後、研究を発展させる上での道標となりました。本研究を通して、臨床応用へ向けた細胞培養・実験技術開発の発展に少しでも貢献できれば幸いです。

最後に、研究する場を提供して頂き、かつ数々の助言をくださる陳勇先生に心より感謝を申し上げます。また、共に日々研究に従事しているグループメンバーにもこの場を借りて、感謝の言葉を述べたいと思います。

木根原 匡希（広島大学大学院医歯薬保健学研究院細胞分子生物学研究室）

この度は、日本組織培養学会第88回大会におきまして奨励賞という荣誉ある賞を賜り、大変光栄に存じております。本会での発表の機会を与えていただきました学会長の理化学研究所中村幸夫先生、大会長の広島大学 二川浩樹先生はじめ、多くの関係者の先生方に多大なご助力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。本賞を受賞できたことは、今後の研究活動の大きな励みとなるとともに、より一層研究に精進していく所存でございます。

本大会では、「PKCとERK経路の二重阻害によるヒト多能性幹細胞の安定維持培養」という演題で発表させていただきました。ヒト多能性幹細胞の性質の安定維持は、未だ難しく、培養者の経験や技術に頼っているのが現状です。このたび私たちのグループは、FGF-2Iによって誘導されるPKCとERK経路の阻害がヒト多能性幹細胞の自己増殖を促進することを明らかにしました。この知見は、ヒト多能性幹細胞の自己増殖機構の理解の一助となり、基礎や応用研究の向上に繋がることが期待されます。

最後に、本研究の遂行にあたりまして医薬基盤研究所ヒト幹細胞応用開発室の古江-楠田美保先生ならびにご協力頂いた同研究室のスタッフの皆様に深く感謝申し上げます。学会員の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 3. 委員会報告

#### 1) 教育研究システム委員会報告

教育研究システム委員会 委員長

片岡 健

日頃より日本組織培養学会教育研究システム委員会の活動へのご理解・ご協力いただきありがとうございます。

会員の皆様のご協力により、本委員会の重要な活動である細胞培養基盤技術コースⅠ、Ⅱ、Ⅲの開催を重ね、今年度は10名の会員を「細胞培養士」として認定いたしました。円滑な講習会の開催のため会場の確保や細胞培養指導士の養成を進めておりますが、受講希望者が殺到して講習会の開催回数が追いついていないのが現状です。そこで来年度以降に開催する講習会では、前年度までに入会した会員を対象とすることにいたしました。コースⅠの受講要件はこれまで受講と同時に入会すればよいとしておりましたので、受講希望の方が皆様のお近くにおられましたらご注意ください。この件につきましては、学会ホームページ等で広く周知するようにいたします。

この基盤技術コースを中心に教育研究システム委員会の活動をさらに充実させるためにも、ご意見等がございましたら片岡まで ([kenk@dls.ous.ac.jp](mailto:kenk@dls.ous.ac.jp)) お聞かせください。

今後とも会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

#### 2) 情報企画委員会報告

情報企画委員会 委員長

坂野 俊宏

当委員会の、昨年度活動実績、本年度活動計画についてご報告いたします。

##### 【2014年度\_活動実績】

一昨年度に引き続き、昨年度も当学会HPのリニューアルを中心に活動してまいりました。昨年開設したテストサイトに改良に改良を重ね、年度は跨ってしまいましたが2015年5月に、リニューアルサイトとして一般に公開することができました (<http://www.jtca.net/>)。

リニューアルサイトには、担当者が直接・適時に更新できるシステムを取り入れました。コンテンツやレイアウトをシンプルにしたことと併せて、情報がタイムリーに見やすく、探しやすくなったと思います。特に、当学会の活動として注目度の高い「細胞培養基盤技術コース（細胞培養認定制度）」の案内や申込みについては、内容も充実し、利便性は向上したと考えています。

#### 【2015 年度\_活動計画】

リニューアルサイト公開後も、当学会の貴重なアーカイブス資料閲覧用に、従来の UMIN サイト (<http://jtca.umin.jp/>) の公開は継続しております。このため、当学会の HP がインターネット上には 2 種類並存しております。この状態を解消すべく、本年度中に、リニューアルサイトから直接、アーカイブス資料にアクセスできるようなリンクを設けたうえで、当学会の HP を一本化する計画です。

また、リニューアルサイトが公開されておりますので、広く皆さまからご意見を賜り、より利用していただきやすくなるような改善を加えていきたいと考えております。

以上。

### 3) テクニカルアーカイブ委員会報告

テクニカルアーカイブ委員会 委員長  
浅香 勲

2014 年度、テクニカルアーカイブ委員会は 2014 年 8 月末に教育研究システム委員会が実施した「日本組織培養学会指導士講習会」において、教育研究システム委員会と共同で細胞培養士や細胞培養指導士の教育用のビデオを作成する目的で、講習会中実施された基本操作の実技や講習内容をビデオ撮影し、編集作業を終了後教育研究システム委員会委員長に提供いたしました。

2015 年度は、細胞品質管理等普及委員会と共同で、細胞の品質管理に関する技術の映像資料を作成する予定です。

### 4) 編集委員会報告

編集委員会 委員長  
中村 幸夫

編集委員会の委員長は、長きにわたり広島大学の岡本哲治先生が担当して下さっていましたが、平成 25 年度から理化学研究所の中村幸夫が担当することになりました。第 88 回大会におきまして、岡本哲治先生には「日本組織培養学会功労賞」を贈呈いたしました。

2 年前の会員通信からご報告しておりますが、TCRC に投稿される総説・原著論文等に関しましては、これまでと同様な Peer Review を経た後に、オンライン (J-STAGE インターネットジャーナルサービス) にて公開することになりました。

平成 26 年度には、原著論文の投稿が 2 編ありました。それぞれの論文につき、2 名の Peer Review を経た後に、1 編は非受理でしたが、1 編が受理されました。また、特別寄稿を 1 編、

受理しました。当該論文及び特別寄稿は、第 88 回大会の抄録集と同時期に、J-STAGE にて公開の予定です。

TCRC への総説・原著論文等のご投稿を、お待ちしております。

## 5) 品質管理等普及委員会活動報告

品質管理等普及委員会 委員長

小原 有弘

### 活動概要

平成 25 年度までに情報発信のためのホームページ・データベース整備を実施し、細胞の品質管理に関する体系的な情報発信を開始しました。平成 26 年度は整備したホームページ・データベースの改修および、データ更新機能の強化を図り、情報発信の強化に努めております。是非、ご活用下さい。

ホームページアドレス：<http://jcrbcelldata.nibio.go.jp/str/>

また、細胞認証の重要性に関する記事を実験医学 2014 年 6 月号に「細胞誤認：その現状と研究者にもとめられる対策」というタイトルにて発表いたしました。研究者の皆様にもってほしい細胞品質に関する情報をまとめております。あわせてご活用ください。

4. 評議員名簿（平成 27 年 5 月 25 日現在、敬称略、順不同）

評議員（重複者を除き 71 名）		役員		
赤池 敏宏	<u>竹澤 俊明</u>	会長	中村 幸夫	
浅香 勲	田仲 昭子	幹事	絵野沢 伸	
伊井 一夫	田中 憲穂		片岡 健	
井出 利憲	田原 栄俊		樽松 美治	
伊藤 文洋	筒井 健機		竹澤 俊明	
上田 忠佳	中村 和昭		二川 浩樹	
江藤 哉子	<u>中村 幸夫</u>		寛山 隆	
<u>絵野沢 伸</u>	永森 静志		Renu Wadhwa	
大野 忠夫	難波 正義		森 一憲	
岡本 哲治	西 義介		会長指定職	西條 薫
加治 和彦	野瀬 清			
菅 幹雄	蓮村 哲			
蔵本 博行	秦 宏樹			
黒木 登志夫	花岡 文雄			
小原 有弘	藤井 万紀子			
小山 秀機	船津 和守			
坂野 俊宏	古江一楠田美保			
佐藤 敬喜	許 南浩			
佐藤 元信	星 宏良			
佐藤 靖史	松村 外志張			
佐野 恵海子	間中 研一			
澤田 秀和	丸野内 棣			
柴沼 質子	水沢 博			
清水 信義	三井 洋司			
白畑 實隆	宮崎 正博			
杉山 俊博	宮本 義孝			
鈴木 崇彦	安本 茂			
鈴木 利光	山崎 泰助			
鈴木 文男	山本 直樹			
関口 守正	渡邊 正己			
高橋 君子	田川 陽一			
竹内 昌男	筒井 健夫			

なお、執行役員（会長、幹事、会長指定職）に選出された評議員の先生には下線を記しています。

## 5. 過去の奨励賞受賞者一覧

### 年次大会

### 受賞者、受賞演題名

<p>第 88 回 2015 年 (二川 浩樹 大会長 広島) 2 名発表のうち 2 名が受賞 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 亀井謙一郎 (京都大学物質細胞統合システム拠点) Creating “right” microenvironments for controlling stem cell phenotypes.</li> <li>・ 木根原匡希 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院) PKC と ERK 経路の二重阻害によるヒト多能性幹細胞の安定維持培養</li> </ul>
<p>第 87 回 2014 年 (竹澤俊明 大会長 東京) 5 名発表のうち 5 名が受賞 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中村和昭 (国立成育医療研究センター研究所薬剤治療研究部) DNA メチル化阻害剤ゼブラリンによる HepG2 細胞の肝機能亢進と細胞死誘導</li> <li>・ 飯田隆治 (Immunobiology &amp; Cancer Oklahoma Medical Research Foundation) フローサイトメトリーを使った骨髄増殖性腫瘍マウスモデルにおける造血幹細胞の研究</li> <li>・ 山本美保子 (佐賀大学医学部病因病態科学講座臨床病態病理学分野) 甲状腺濾胞細胞-脂肪組織相互作用解析モデルの樹立</li> <li>・ 中路 正 (富山大学先端ライフサイエンス拠点) 中枢神経再生のための移植細胞制御材料の開発</li> <li>・ 玉井美保 (東京工業大学大学院生命理工学研究科) 動物実験代替を目指した in vitro 肝組織モデル</li> </ul>
<p>第 86 回 2013 年 (レヌー・ワダワ 大会長 筑波) 2 名発表のうち 1 名が受賞 (50%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 押方 歩 (独立行政法人農業生物資源研究所動物科学研究領域) Development of a culture method activating hepatic function of HepG2 cells utilizing a collagen vitrigel membrane chamber and its application to assay systems for liver metabolism and toxicity.</li> </ul>
<p>第 85 回 2012 年 (浅香 勲 大会長 京都) 2 名発表のうち 2 名が受賞 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高山和雄 (大阪大学大学院薬学研究科、医薬基盤研究所幹細胞制御プロジェクト) SOX17、HEX、HNF4α遺伝子導入によるヒト多能性幹細胞から成熟肝細胞の効率良い分化誘導</li> <li>・ 前 伸一 (京都大学 iPS 細胞研究所) ヒト多能性幹細胞から腎臓系譜に分化する中間中胚葉細胞の高効率な分化誘導法の確立</li> </ul>
<p>第 84 回 2011 年 (絵野沢 伸 大会長 東京) 3 名発表のうち 3 名が受賞 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シング・ルマニイ (筑波大学生命環境科学研究科、産業技術総合研究所) Molecular biology of the role of CARF in aging and cancer: basic and interventional approaches.</li> <li>・ 波多野寛子 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科展開医科学専攻顎口腔頸部医科学講座) DC1RHAMM の細胞増殖および分化への関与の検討</li> <li>・ 高橋由里子 (株式会社トランスパレント) 細胞非接着性表面処理による 3 次元培養基板を用いたヒト初代肝細胞機能評価</li> </ul>

<p>第 83 回 2010 年 (許 南浩 大会長 岡山) 3 名発表のうち 3 名が受賞 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 久保孝文 (岡山大学大学院医歯薬総合研究科腫瘍・胸部外科) 悪性胸膜中皮腫の新しい分子生物学的異常と治療応用の可能性</li> <li>・ ガオ・ラン (産業技術総合研究所、筑波大学生命環境科学研究科) 培養がん細胞内のモーターリン分布パターンをもとに同定された抗がん遺伝子標的</li> <li>・ 上野 剛 (岡山大学大学院医歯薬総合研究科腫瘍・胸部外科) EGFR チロシンキナーゼ阻害剤に対する耐性株の樹立と分子生物学的特徴の検討</li> </ul>
<p>第 82 回 2009 年 (間中 研一 大会長 栃木) 4 名発表のうち 4 名が受賞 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 館山大揮 (医薬基盤研究所生物資源研究部門細胞資源研究室、ニプロ株式会社) 無血清培養下におけるヒト胚性幹細胞ならびに人工多能性幹細胞のインテグリン発現プロファイル</li> <li>・ 村田 等 (岡山大学大学院医歯薬総合研究科細胞生物学分野) BRPK/PINK1 の mTORC2 活性化を介したがん進展への寄与</li> <li>・ 松本真司 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子細胞情報学研究室、口腔医学顎顔面外科学) Wnt シグナル関連分子 Dishevelled による上皮極性・形態形成制御機構についての解析.</li> <li>・ 稲村 充 (医薬基盤研究所基盤的研究部遺伝子導入制御プロジェクト、大阪大学大学院薬学研究科) 分化ヒト ES 細胞から中内胚葉へのラミニンによる分化促進効果</li> </ul>
<p>第 81 回 2008 年 (中村 幸夫 大会長 筑波) 2 名発表のうち 1 名が受賞 (50%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相原祐子 (横浜市立大学大学院国際総合科学研究科) 無血清単層培養系によるマウス ES 細胞からの神経堤細胞の効率的誘導法の確立</li> </ul>
<p>第 80 回 2007 年 (水澤 博 大会長 大阪) 3 名発表のうち 3 名が受賞 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Widodo Nahi (筑波大学人間総合科学研究科分子細胞生理学分野) Selective killing of human cancer cells by leaf extract of an Indian Ayurvedic herb, Ashwagandha.</li> <li>・ カウル・ジニア (国際基督教大学理学科) 新規インターナライズ抗体を標識化した Quantum dots による蛍光細胞の世代継続</li> <li>・ 森 一憲 (昭和大学薬学部微生物薬品化学教室) 足場非依存性細胞増殖への cyclin D1 の関与</li> </ul>
<p>第 79 回 2006 年 (鈴木 崇彦 大会長 東京) 2 名発表のうち 2 名が受賞 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村田 健 (東京農業大学大学院農学研究科) ウシ卵管上皮細胞に於ける Robertsonian 型染色体融合の解析</li> <li>・ 李 禎翼 (東京大学大学院農学生命科学研究科獣医外科学、国立病院機構千葉東病院) 温度応答性の培養皿を用いた細胞シート工学法による免疫隔離人工臓器の開発</li> </ul>

<p>第 78 回 2005 年 (岡本 哲治 大会長 広島) 2 名発表のうち 2 名が受賞 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 林 洋平 (東京大学大学院総合文化研究科) マウス ES 細胞の分化制御における細胞外マトリックスの機能解析</li> <li>・ 脇 浩司 (広島大学大学院医歯薬総合研究科分子病態制御内科学) 肝細胞と肝星細胞の不死化</li> </ul>
<p>第 77 回 2004 年 (丸野内 隼 大会長 名古屋) 2 名発表のうち 2 名が受賞 (100%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苅谷慶喜 (横浜市立大学木原生物学研究所細胞生物学部門) 可溶性運動促進因子としての基底膜タンパク質ラミニン 5 の作用</li> <li>・ 山本直樹 (藤田保健衛生大学共同利用研究施設分子生物学研究室、同大学総合医科学研究所応用細胞学研究部門) 成体マウス虹彩組織からの神経網膜細胞への分化誘導</li> </ul>
<p>第 76 回 2003 年 (野瀬 清 大会長 東京) 3 名発表のうち 2 名が受賞 (67%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金山朱里 (昭和大学薬学部微生物薬品化学教室) 進展刺激による平滑筋細胞高発現蛋白質 Hic-5 の細胞内局在変化</li> <li>・ 福井康人 (広島大院医歯薬学総合先進医療開発科学講座分子口腔医学顎顔面外科学) アクチビン A による顎顔面軟骨誘導</li> </ul>
<p>第 75 回 2002 年 (秦 宏樹 大会長 東京) 10 名発表のうち 4 名が受賞 (40%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小林雅史 (広島大学大学院医歯薬総合研究科創生医科学専攻先進医療開発科学講座) カテニン結合蛋白質の核内輸送の分子機構とその意義</li> <li>・ 伊藤丈洋 (株式会社機能性ペプチド研究所) ウシ発育途上卵胞、卵子の体外発育に及ぼすインスリン関連因子、卵細胞刺激ホルモン (FSH) 及び黄体ホルモン (LH) 効果</li> <li>・ 新関 修 (東北大学加齢医学研究所腫瘍循環研究分野) 血管新生に関与する murine Puromycin Insensitive Leucyl-specific aminopeptidase(mPILSAP)の遺伝子クローニングと転写調節</li> <li>・ 竹澤俊明 (独立行政法人農業生物資源研究所動物細胞機能研究チーム) 組織切片を利用した新しい細胞培養技術</li> </ul>
<p>第 74 回 2001 年 (大野 忠夫 大会長 筑波) 7 名発表のうち 3 名が受賞 (43%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杉原伸宏 (信州大学大学院、医学研究科、臓器発生制御医学講座) 培養肝細胞を新規薬物の初期スクリーニングに用いるための電気化学的薬物代謝活性測定法</li> <li>・ 川崎裕史 (産業技術総合研究所分子細胞工学研究部門) 酸化ストレスによるテスミン 60 の核外輸送制御とシステイン残基の重要性 ー生殖細胞の分化とレドックス</li> <li>・ 横山和博 (徳島大学歯学部口腔外科学第一講座) 扁平上皮癌細胞の細胞生物学的性状に与える転写因子の影響</li> </ul>